学校だより　No.7　　２０２１年　６月２日

梨の花

市川市立稲荷木小学校
〒272-0024　市川市稲荷木１－14－１　TEL　376-5961
http://www.toukagi-syo.ichikawa-school.ed.jp

イナリンピック 2021 を終えて

校長　清田　博之

29 日（土）は、天候・気温条件とも絶好のコンディションの下、イナリンピック 2021 を開催することができました。休日にも関わらず、大勢の保護者の皆様に参観、熱い応援をいただきありがとうございました。また、PTA の皆様、施設開放の皆様には万国旗の取り付け、駐輪所の誘導、トイレの準備や後片付け等で大変お世話になりました。重ねて感謝申し上げます。

1･2 年 「あいうえおんがく♫」

3･4年 「花笠音頭2021」

5･6年　「決意」

感染防止の為、昨年度に引き続き、低・中・高の３部制での実施となった今年のイナリンピックでしたが、保護者の皆様の目にはどのように映られたでしょうか。感染症対策、暑さ対策等の子どもの健康安全面、指導時間の確保、などいろいろなことを考慮すると、これからの「運動会」は、今回のイナリンピックに近い形がスタンダードになっていくことも想定されます。（入場行進等の儀式的なものの簡素化・応援合戦等の省略…・全体の時間の短縮化）

私は、今まで行ってきた運動会のスタイルにも教育的価値は非常に大きかったと感じていますので、どこで折り合いをつけていくか…難しいところです。ぜひ、保護者の皆様のご意見もお聞かせ願えればと思います。

低学年の「あいうえおんがく♫」では、６色のボンボンと子どもたちの躍動的なダンスがマッチして、とても楽しいものでした。１年生を見ていると「生まれてからまだ６年ちょっとなのに、よくここまでできるようになって…」。でも、１年たった２年生の動きをみると「やはり１年間の成長は大きいな」とつくづく感じます。低学年の子どもたちにとって、この団体演技への取り組みは「イベント的な要素」「思い出作り」といった側面以上に、「決められた手順をきちんと覚え、それに向かって気持ちを集中させて動くことを経験する、訓練する」といった重要な教育的意義があります。

中学年の「花笠音頭２０２１」は、美しい花笠の動きに合わせた民舞が見事だったと思いました。低学年の「決められた動きを忠実に再現」＋「動きの一つ一つに気持ちをこめてきびきびとした動き」が再現されていました。

目線、膝の曲げ具合、花笠を掲げる高さなど一つ一つの動きに気を配って踊ることができるようになっていた中学年の子どもたちの成長を感じることができました。

そして、高学年の『決意』。その名の通り、高学年としての「決意」がビンビンに心に伝わってくる見事な演技だったと思います。旗を使用する前の一人技のバランス演技、旗を使って音楽に合わせての力強く、一糸乱れぬ集団の動き…。刮目せずにはいられないものでした。自分が学級担任として指導をしていた際は、「組体操」全盛の時代でしたが、危険度の高い演技を見せなくても十分に感動を与えることができるということを改めて感じさせられました。

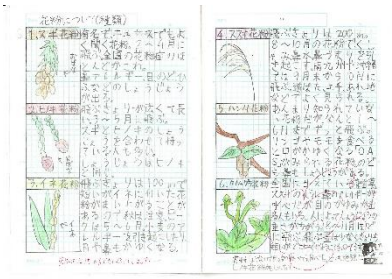
今回のイナリンピックの指導を陰で見守っていて良かったなと強く感じることが２点あります。

１点目は、教員が「強い言葉」で指導をする場面がほとんど見られなかったことです。勿論、指導は必要なので「叱る」ことも大事ですが、感情的になったり人格を否定するような「怒る」ことは、私がつかんでいる中ではありませんでした。

２点目は、練習の始めに子どもたちに「今日の練習の目あて」を意識させていたことです。「やらされる練習ではなく、自発的な考えてやる練習を」…全てにおいて必要な意識ですね。

自主学習について

「興味をもったことについて進んで調べてみる」「課題だと感じている点について、自主的に補強（練習）をする」…こういった態度や習慣を小学生時代に身に着けておくことが、将来的に大きな財産となります。そこで、優れた自主学習の取り組みを紹介し、表彰して奨励していくことにしました。（スペースの都合上、ほんの一部のですが、紹介します。）



６－２　　さん
「花粉について」

６－２　　くん
「歴史上の人物」